

(別紙5)

整理番号 2018P-158
補助事業名 平成30年度 引きこもり・不登校に対する支援活動 補助事業
補助事業者名 公益社団法人青少年健康センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

「ひきこもり等生きづらさを抱えた方々やそのご家族が、いきいきと社会参加、生活できると社会」を目指すため電話相談・相談/居場所支援・普及啓発活動等を実施しています。

(2) 実施内容

(URL) <http://skc-net.or.jp>

<演劇活動・体験型活動を用いた社会参加準備支援>

毎月原則第1日曜と第3土曜日に開催し、演劇ワークショップおよび体験型活動を実施しています。「対人援助職が運営する演劇ワークショップ」ゆえ、自然と、コミュニケーションに自信のない参加者が集まっており、①ウォームアップ、②リラクゼーション・発声練習、③演技体験を主にプログラムとして実施しています。



<対話を重視した技法「オープンダイアログ」形式を用いた、家族支援と交流会>

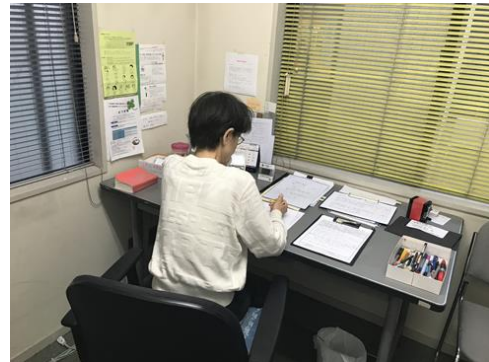
フィンランドのケロプダス病院にて1980年代から開発と実践が続けられてきた治療技法でオープンダイアログを用いた講座を開催しています。精神科医の斎藤環氏ら見識の深い専門家の2名体制で行い、グループワークのファシリテーターの役割を担う。対話を中心としたワークを用いながら、親自身の家族関係を見つめ直す機会となるよう実施していく。



(別紙5)

〈青少年自殺予防事業〉

月曜日から金曜日までの間、常駐する経験豊かな専門スタッフが電話相談に対応しています。精神科医は毎月原則第2、4土曜日に電話および面接相談ができる体制をとっており、日常的な相談電話等で必要性を感じた場合、精神科医の相談へと促しています。



2 予想される事業実施効果

〈演劇活動・体験型活動を用いた社会参加準備支援〉

ひきこもり状態であった方々に対しては、本事業を通してより社会と密着した状態に近づき将来的には就労等の自立へと進むものと思われれます。また一般で参加されており自立をしているものの生きづらさを抱えた方に対しては、社会より脱落するのを防ぎ、社会生活を維持することに期待ができます。このように本事業においてはひきこもり状態からの回復から社会生活の脱落を防ぐという両側面を持つと考えております。

〈対話を重視した技法「オープンダイアログ」形式を用いた、家族支援と交流会〉

本事業より家庭内のコミュニケーションが改善されることによって、家庭内でのつながりが回復していくことと思われれます。また家族内でのつながりを取り戻すと、今後は社会とのつながりを取り戻すステップとなります。これ以降は様々な可能性があると思いますが、人によってはアルバイトを始めたり、支援機関につながったりと色々な活動を進むと思われ、現状でもそのような動きが見える家庭もございます。このようなケースが増えること期待しており、またそのようになるよう事業を継続していきたいと考えております。

(別紙5)

〈青少年自殺予防事業〉

今後とも若者世代だけでなく、地域の支援機関に繋がりを持てない方々から多くの相談を受けるものと思われます。我々の電話相談事業より社会のとの繋がりを見出し、1人でも多くの自殺を考えてしまう方々に寄り添い、必要があれば医療相談につなげ、日本国内の自殺問題に対処できるよう対応してまいりたいと考えております。

3 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益社団法人青少年健康センター

(コウエキシャダンハウジンセイシヨウネンケンコウセンター)

住 所： 〒112-0006

東京都文京区小日向4-5-8 三軒町ビル

代 表 者： 代表理事 齋藤友紀雄 (ダイヒョウリジ サイトウユキオ)

担 当 部 署： 事務局 (ジムキョク)

担 当 者 名： 事務局長補佐 鈴木隆之 (ジムキョクチョウホサ スズキタカユキ)

電 話 番 号： 03-3947-7636

F A X： 03-3947-0766

E - m a i l： info@skc-net.or.jp

U R L： <http://skc-net.or.jp/>